

(お知らせ)

平成22年9月6日

京都映画祭実行委員会

電話 212-0920

担当 文化市民局文化芸術都市推進室
文化芸術企画課 電話 366-0033

京都文化祭典'10 ~KYOTO ART FESTIVAL~
「第7回京都映画祭」京都映画功労賞等の受賞者について

「京都文化祭典'10 ~KYOTO ART FESTIVAL~」の一つとして、10月6日からスタートする「第7回京都映画祭」では、映画の作り手にスポットを当てた「京都映画功労賞」、「京都映画奨励賞」「牧野省三賞」の3つの賞を設け、顕彰を行っています。

この度、各々の受賞者が決定しましたので、お知らせします。

記

1 京都映画功労賞（2名）

(1) 馬場 正男（ばんば まさお）

株式会社松竹京都撮影所 美術管理 83歳

（受賞理由） 永年、映画・映像美術管理スタッフとして、様々な作品に携わり、京都の映画制作に尽力したことによる。

（主な作品、経歴） 『羅生門』（1950年）、『地獄門』（1953年）、『朱雀門』（1957年）、『鴨川ホルモー』（2009年）

(2) 山下 義明（やました よしあき）

東映太秦映像株式会社 演技事務 69歳

（受賞理由） 30年にわたり演技事務として、多くの俳優、スタッフの信頼を受け、京都の映画製作を支えたことによる。

（主な作品、経歴） テレビシリーズ『水戸黄門』を始め、様々な映画・テレビドラマを担当。

2 京都映画奨励賞（1名）

朝倉 義人（あさくら よしと）

東映株式会社京都撮影所 撮影 41歳

（受賞理由） テレビ映画や劇場映画の撮影において中心的な役割を果たし、今後の京都映画を担う若手として、今後更なる活躍が期待されることによる。

（主な作品、経歴） 『おみやさん』（2002～）、『科捜研の女』（1999～）、『京都地検の女』（2003～）（以上テレビドラマ、メインカメラマンとして）

『男たちの大和-YAMATO-』（2005）、『バルトの楽園』（2006）、『大奥』（2006）（以上劇場映画、撮影チーフとして）

3 第45回牧野省三賞（1名）

森田 富士郎（もりた ふじお）

撮影 82歳

（受賞理由） 撮影技術分野において、60年以上にわたり、京都映画、日本映画を支え、数々の功績を残すとともに、様々な機会において後進の育成に努めていることによる。

（主な作品、経歴） 『大魔神』（1966年）、『金閣寺』（1976年）、『陽暉楼』（1983年）、『鬼龍院花子の生涯』（1982年）、『序の舞』（1984年）、『利休』（1990年）、『藏』（1995年）

4 授賞式について

(1) 日時

平成22年10月11日（月・祝） 午後5時から

※ 第7回京都映画祭クロージングセレモニーの場で表彰します。

(2) 会場

祇園会館（京都市東山区祇園町北側）

<参考1> 各賞について

1 京都映画功労賞

京都で作られる映画の製作に関わり、その高度な創造力と技術力によって京都の映画の発展に寄与し、支えてきた功績を称え、表彰するもの。

2 京都映画奨励賞

これからの京都の新しい映画の製作を担っていく人材を発見し、育成したいと願って、京都の映画に関わり、特に顕著な活躍をした若き映画人に期待をこめて贈られるもの。

3 牧野省三賞

「日本映画の父」と呼ばれる故・牧野省三氏の遺徳を偲び、日本映画の発展に比類のない貢献を行った映画人の栄誉を称え、その功績を表彰するもの。

<参考2> 「京都映画祭」について

1 開催趣旨

映画都市・京都の歴史を振り返るとともに、京都に蓄積されている日本映画を育ててきた人材や技術・経験を生かし、新たな映画文化の創造を図り、「映画都市・京都」を世界にアピールすることを目的として平成9年度から開催しており、今回で7回目を迎える。

2 開催期間

平成22年10月6日（水）から10月11日（月・祝）まで

3 会場

祇園会館、京都シネマ、京都会館、京都文化博物館、京都芸術センター

4 概要

「戦国と幕末のヒーローたち 時代劇が描いた歴史」と題し、関連作品や若手監督作品の上映、ゲストトーク、シンポジウムほか